



Giving Tree

クリスマスの贈り物を通じた世界的な慈善活動

作成者：岡山理科大学 経営学部経営学科 3年 社会にいいことラボ

Giving Treeは、アメリカを中心に広がったクリスマス時期の慈善活動として非常に重要な文化的意味を持っています。

基本的な仕組み

Giving Tree は、クリスマスツリーに短冊を飾り、それぞれが困っている子どもたちへの寄付リクエストを表すシステムです。寄付者は好きな短冊を選んで、そこに書かれた子どもの年齢や性別、欲しい物に基づいて具体的なプレゼントを用意します。

歴史と発展

この取り組みは 1990 年頃から始まり、困窮家庭の子どもたちにクリスマスプレゼントを届ける活動として発展してきました。現在では全米各地の学校、職場、地域団体、宗教施設などで実施されています。

現代的な実施方法

伝統的な物理的なツリーだけでなく、現代では以下のような形態も見られます

バーチャル Giving Tree: オンラインプラットフォームで寄付リクエストを管理

ミトンツリー: 冬用の手袋や帽子などの防寒具を集める特別版

体験ギフト: 物だけでなく、子どもたちへの体験や外出の資金を提供

文化的意義

Giving Tree は単なる慈善活動を超えて、アメリカのクリスマス文化に深く根ざした伝統となっています。家族や地域コミュニティが一体となって困っている人々を支援する精神を体现し、特に子どもたちに「与える喜び」を教える教育的な側面も持っています。

多くの組織が地域の支援を必要とする子どもたちからクリスマスの願い事リストを収集し、寄付者がその中から選んでプレゼントを提供する仕組みにより、具体的で意味のある支援が可能になっています。

この活動は、シェル・シルヴァスタインの名著『おおきな木』(The Giving Tree)の精神とも重なり、無条件の愛と寛大さの象徴として多くの人に愛され続けています。

現代的な発展

デジタル化により、物理的な境界を越えた支援が可能になり、コロナ禍を経てオンラインプラットフォームでの参加が急激に増加しました。現在では、アメリカ発祥のこの文化が世界各地で独自の発展を遂げ、真にグローバルな慈善文化として定着しています。

この規模感は、単なる慈善活動を超えて、現代社会における「共助」の象徴的な仕組みとして機能していることを示しています。



活動規模と影響力

100万人以上

サルベーション・アーミーの「Angel Tree」プログラムだけで、毎年困窮家庭の子どもたちにクリスマスプレゼントを提供

200万人以上

Family Giving Tree（カリフォルニア州）は35年間で子どもや個人にサービスを提供

2,000個以上

単一地域の例として、あるプログラムでは昨年だけでギフトを里親や危険にさらされている子どもたちに配布



国際的な展開

イギリスでの展開

2019年のクリスマスシーズンには、イギリス全土で**23,328個**のおもちゃが避難所の子どもたちに配布されました。企業や個人がシークレットサンタの代わりにGiving Treeプログラムに参加する文化が根づいています。

グローバルな影響

年間参加者数

数百万人

アメリカだけで

支援対象

数千万人

全世界の子どもたち

経済効果

数億ドル

年間規模

文化的影響

30以上

の国で展開

私たちのアプローチ

私たちのチームでは、この活動を岡山で実施するにあたり、以下のようにプランを立てています。

- ・地域の商業施設にギビングツリーを設置させてもらい、プレゼントを寄付していただく
- ・集めたプレゼントは、クラウドファンディングで養護施設にクリスマスプレゼントをしている西村さんに協力いただき、施設へ届ける

Giving Tree

海外のクリスマス時期の慈善活動・助け合いの文化

『経済的に困難な子どもたちや、社会的養護が必要な人々への支援を目的とした活動。』

Giving Treeは、クリスマスツリーにプレゼントを必要としている人の名前や欲しいものが書かれた短冊が吊るされ、それを見た人々がプレゼントを寄付するという仕組みです。

01 子どもたちに欲しいものを短冊に書いてもらい、ツリーに飾ります。

02 ツリーを通りがかった人が短冊を見て持ち帰り、書かれたプレゼントを購入します。

03 プрезентを短冊と一緒にツリーの下に置いてもらいます。
(実際には用意された受け取り窓口で受け取ります)

04 ご支援いただいたプレゼントは、私たちが責任を持って、一人ひとりの子どもたちに心を込めてお届けいたします！

あなたもサンタクロースになってみませんか？